

## 平成 18 年度第 1 回浦安市廃棄物減量等推進審議会議事録（議事要旨）

1. 開催日時 平成 18 年 10 月 4 日（水） 午前 10 時～正午

2. 開催場所 浦安市文化会館 3 階大会議室

3. 出席者

（委員）

横山会長、服部副会長、前野委員、北島委員、伊藤委員、田村委員、小口委員、大塚委員、小林委員、宇田川委員、松岡委員

（事務局）

大野部長、柏木次長、永井課長、峰崎課長補佐、加藤係長、飯沼、土田

4. 議題

（1）浦安市一般廃棄物処理基本計画策定の見直しについて

（2）イベントごみ減量ガイドライン策定について

5. 議事の概要

（1）浦安市一般廃棄物処理基本計画策定の見直しに関する説明と意見交換

（2）イベントごみ減量ガイドライン策定の報告

6. 会議経過

環境部長より挨拶に続き、会長が議事を進行した。

ごみゼロ課長より、会議次第の（1）浦安市一般廃棄物処理基本計画策定の見直しについて概要を説明した後、浦安市一般廃棄物処理基本計画策定業務を受注している八千代エンジニアリング株式会社から浦安市の現状等について説明を行った。

事務局からの説明後、各委員より質問及び意見を受け付けた。内容については、次のとおり。

- ・会長 説明していただいた基本計画の改定の趣旨と、構成案と、審議工程について、質問または意見をお願いします。
- ・委員 前回の会議のときに、容器包装リサイクル法見直しについて、費用負担の問題で通過しなかったと書いてあったが、その後どうなったのか。そのまま廃案になったのか。

・事務局 容器包装リサイクル法について、まず費用負担については、市町村が要望していたような費用の負担割合は認められない内容だったかなと思います。各市町村が分別に努力して成果を出した分については、容器包装リサイクル協会に各事業者が一部を補助する内容であったが、その額も非常に少ないものでした。

また、レジ袋の有料化については、いろいろな分別等との絡みでうまく整理されていないため、法律でレジ袋の有料化を定めるところまでは至っていません。総体的な印象としては評価する部分もあるが、我々が要望していた役割分担・排出抑制につながる改正には遠いかなと思っています。

事務局からの浦安市の現状について説明後、休憩を挟み、各委員より質問及び意見を受け付けた。その際の内容については、次のとおり。

・委員 焼却灰を処理するには、最終処分場がどうしても必要です。説明の中で「最終処分量が減っている」とあるが、現在の予定では、今使っている処分場の残余年数はあと何年もつのか。また、その分析がこの現状整理の中で市とコンサルの方々に捉えられているのかどうか。それに合わせて将来、処分場はどうするのかという問題が出てくるかと思いますが。

・事務局 最終処分場があと何年もつかというのは、なかなか難しい内容です。毎年1～2回ぐらい現地の様子を見に行くが、担当者によると「皆様のごみ減量努力が進んでいて、例えばある年に残り5年と言ったのが次は7年。次は10年もちますよ」と。実は逼迫していると言いながらも、そういう意味では少し余裕が出てきたかなというのが正直な印象です。ただ、これは当然有限な場所なので、事情を理解した上で、最終処分計画が立てられるものということでは認識しています。今の状況に限って言うと、それほど逼迫はしていないという事実だけは申し上げておきます。

・委員 先ほど、事業系ごみが減らない理由として従業員の増加という説明がありました。しかし人口比で比較するのは少しおかしいかと思うが、データはどのようにして出したのか。例えば、千葉県でも事業所がほとんどないところもあるため、人口だけで比較すると、あまり公正ではないのかなと。また、事業系が減らないことについて、どういう業種がという部分は把握しているのか。事業系の方は心苦しいかもしれないが、その辺まで将来的には取り組んでいく必要があるのではないかと。金さえ払えばいいという感覚では、さらに地方自治体の負担が増えてしまう危険性があるかと思うので。

・事務局 人口比での比較については、1つの考え方として、こういう手法をかけたということでご理解をお願いします。確かに従業員が少なくても、生産量が多い、大量にごみが出るなど、色々な要素があります。どういう切り口で原単位を設定するかというのは難しい問題

ですので、あわせて基本計画の中で検討できればと思っています。さらに、ディズニーランドなども従業員で比べていいのかという課題もあります。

次に、事業系、業種でのごみ量については、クリーンセンターでは事業系のごみとして一括して入っていますので、事業系の固まりとしては把握できますが、業種というのは難しいです。しかし、多量排出事業者という一定規模以上の事業者については、ごみ量の報告や資源化というのを義務づけておりますので、浦安ではかなりの割合で多量排出事業者のごみ量は把握できます。業種別の比較に関してはできるかと思います。委員がご指摘のように、そういう業種別になって、どこが多いか少ないかという分析もこれから指導していく上で重要なことと思いますので、努力していきたいと思います。

- ・委員 案のような話ですが、各企業に対して目標値を（合意の上で）今後作ったらどうか。また、統計の話については、従業員数で割ったほうがいいと思います。従業員もそれぞれ責任感・連帯感を持つし、競争の原理にもなるのではないかと。浸透するまでに時間がかかるかもしれないが、何かの指標または形をやられたらいいかと思います。
- ・事務局 浦安はあらかじめ三次産業ですが、千葉県内では千葉市とか市原市が大きくて製造メーカーや鉄鋼関係とかから大量の廃棄物が出ると思います。これらの大体が産業廃棄物で、いわゆる地域のクリーンセンターに出ない廃棄物になっているため、一概に比較ができません。そうした意味では、各事業所に対して目標を出させるのも一つの案かと思います。また、多量排出事業所は、直接ごみゼロ課が指導する対象です。とりわけ、オリエンタルランドは浦安市の廃棄物の相当量を占めており、直接やりとりをさせていただいて目標も持っており、それについて進行管理もあり我々との協議もごさいます。先ほどの説明は現状説明ということで、家庭系ごみの1人あたりは減っているが事業系は微増していますので、そこは強化しなければいけない対象ということで認識しています。
- ・委員 浦安市の従業員総数がどんどん増えていて平成3年度が76,700人というのは驚きました。それに伴いごみも増加しているとのこと。従業員数の大幅な増加によって家庭系よりも減量化が少ないという説明だったが、要は従業員が増えるということは、企業の収益・社会経済が膨らんでいるということになります。そうすると、従業員が増えることとごみが増えることに因果関係はあるのか。事業の拡大で従業員が増えてごみも減量化が少ないというのはおかしいのかなと。事業者のごみは、従業員の人が出すごみではなくて、事業者が出すごみですよ。
- ・事務局 資料で従業員数を見ていただくと、大体はサービス業です。これは、事業が活発化するという意味ですから、ある意味で人口・従業員数に比例しているのではないかということです。新しい企業が進出すれば（詳細に検討しているわけではないが）当然、従業員が増えます。企業・従業員が増えるということは、廃棄物が出る要素が増えるということで、

経済活動が活発だということになります。

- ・委員 そういったところを見直していけばいいということですね。
- ・会長 従業員がごみを出しているわけではないということで引っかかっていました。
- ・委員 言い方・表現の仕方なんですけど、ただ、今後策定をするにあたって、その部分に目を向けていけば家庭ごみと同様に減量に進むのかなと思います、確認させていただきました。
- ・委員 知り合いから「浦安っていい」と言われます。それだけいろいろな企業が進出してきてるし、事業が活性で市民もそれで潤っているのではと言われるので、それはとてもいいことだと思います。
- ・委員 平成8年から平成13年で増えているのが15,000人。そのうちの13,000人がサービス業ですね。お店や従業員が増えるとお客が増えるため、お客が出すごみが多くなると思います。ただ、表現の問題だと思います。従業員が増えている店に対して「従業員減らしなさい」という指導はできませんよね。
- ・委員 重要なのはこれをどのように減量化に結びつけていくかですね。
- ・委員 従業員とお客が増えても、ごみが増えなければ一番いいんですよ。そういう方向に持っていきたいですね。
- ・委員 先ほどの目標値の話についてですが、経済活動を前提とすると、普通は事業内容や事業所が増えていきます。そこで例えば、ごみの減量目標が5%とすると、事業所が増えてごみも増えた場合、目標と遠くなってしまうかなと思います。また、ごみだけでなく、エネルギー関連でも年間1%減という目標があります。

次に、事業所でのごみ減量アイデア。例えばペーパーレス化とか、決済でも紙やハンコを使わずにオーケーサインというところがあります。このような好事例は、波及すべきだと思いますが、企業秘密になっているのが実際だと思います。そうなるとう減量化は進まないの、やはり知恵を出し合っても独自のやり方では難しいと思います。
- ・委員 家庭ごみは、住んでいる人が自分の意思で出します。事業ごみも自分で決めているように見えますが、お客の要望でごみにすることが多いと思います。だから事業系のごみをただ減らせと言っても難しいこともあります。一般の消費者やバイヤー業者の意識を変えない限り、事業者には「絶対ビニール袋を渡すな」とか「冷房を止めろ」と強制しても売れなくなってしまいます。事業系ごみは、また別の感覚でやる必要があると思います。できれば今度の計画の中に、浦安市民に対する啓発や教育という意味で入られるよう検討していただければと思います。
- ・委員 指定ごみ袋制になって、確かに家庭ごみは減っているようですが、事業所勤めの人は、事業所に来ると意識が薄れるということはないでしょうか。
- ・委員 会社の中で、代表者同士の話し合いやアイデアを出し合ったりする機会や委員会等は

ありますか？

- ・委員 毎年1回行っていますが、アイデアはなかなか出てこないですね。
- ・委員 人間は何か出るまでやるぐらいの気持ちで考えれば出ますよ。家庭ごみは住民が一生懸命やっていますから、事業者も市民になったつもりでやっていただかないと。決していじめる等の意味ではありませんが、皆で協力してやらないと浦安市はよくなりませんよね。
- ・委員 これはどちらかという私の分野外なんですけど、こちらの事業所は、いわゆる事業系をうちに集めています。事業者はごみを処理するのにお金を払っているため、かなり絞っているはずですよ？
- ・委員 そうですね。
- ・委員 結局、1キロあたりの金額で払っているんで、相当絞っているはずですよ。先ほど従業員の話が出ましたが、多分従業員にも徹底をされていると思います。
- ・委員 しかし、さきほど話したように、「金を払っているからいいじゃないか」という考えがないかと。
- ・委員 いや、事業者はそんなこと思いません。事業者はなるべくお金を払いたくないので、ごみをなるべく少なくしようと思います。金を払っているからいいだろうというのは、我々市民がごみ袋にお金を払っているからいくら入れても自由じゃないかという感覚と同じです。事業者は少しでも売上に対して経費は抑えたいため、従業員もなるべく少ない従業員でやります。少しでも節約しているはずですよ。
- ・事務局 事業ごみは減っています。市民が出すよりも実際減っています。例えば、ディズニーシーの話ですが、面積と従業員を倍にして、2,500万人の人を呼びました。しかし、不思議なことにごみは減っています。なぜかという、ごみ減量を徹底したためです。事業系が増えているというのは、相対的に新しいお店が入ってきています。西友もショッパーズもずっとありましたが、それこそオーケーなどの新しいスーパーが来ました。そして、そこに50人～100人ぐらいの従業員も来て、1店舗、2店舗と増えていくと、全体が押し上がる。しかし、既存店の方たちは、既に色々なことをやっていて、ごみ処理のコスト負担で何百万円、何千万円がかかっていますので、何とか減らさなければいけないと努力しています。小さなお店は処理費の含んだごみ袋を買っています。10枚、20枚で幾らといういわゆる指定袋ですが、そこに運搬や処理のお金を上乗せした金額で、事業者はそれを払っています。これは1袋250円ですが、小さいお店からすると死活問題です。必死になってごみ減量にと苦労されています。ですから、個々のお店がやっている中で、普及させてほしい点はこの審議会でも一回意見を出していただき、良い点は普及させ、課題があれば解決に向けた案を出していただきたい。また、新しく入ってきた事業者にも浦安スタイルを理解していただき、事業系のごみも同じく「企業は増えたけれどごみは減った」で

ないといけませんね。ついでの話ですが、家庭系のごみは増えていますが、確実に人口が増えましたので1人あたりは減っています。データでも一進一退を繰り返しています。平成16年度と17年度はトータルでは微増していますが、人口が増えていますので、1人あたりでは減っています。これは、事業系でも全く同じことが言えます。事業所も努力しているが、事業系ごみが増えていますね。ですから、業種ごとや事業ごとで把握した方がいいという話があり、そうだなと思いました。トータルで事業系ごみの量が増えているとしか表示できませんが、個々の事業あたりでは減っています。

- ・会 長 さきほどの話については、事務局が一旦整理してくれました。
- ・委 員 スーパーのレジ袋の有料化についてはどうなりましたか。
- ・委 員 私の知っている範囲で、浦安市内ですと、西友やダイエー、イトーヨーカドーではマイバッグ運動を行っており、「レジ袋要りません」と言うと5円のスタンプを押してくれます。20回で100円の物が買えますし、スタンプを押してもらって「ありがとうございます」ってレジで言ってくれます。私はそれが嬉しくていつもマイバッグを持っています。オーケーストアは有料だそうです。
- ・事務局 先ほどの容器包装リサイクル法の、改正点の質問についてですが、さきほど申し上げたのは、レジ袋の話でしたが、今の話に照らしてみると、主務大臣や環境大臣等がある一定の容器包装の量を超えた事業者については、ペナルティー等を課すというような規定があります。その部分の対策については、外の判断基準の中で位置づけるということです。
- ・委 員 事業所としては、やはり自助努力でいろいろやっているところが多いと思いますが、ちょっと誤解かもしれませんが、企業側がある数値目標を設定して達成できなかった場合、排出金としてお金を払えばいいのかなと思います。また、企業も市民の方も、ごみ袋を買って作業をしているわけですから、大体幾らぐらいお金を出しているのか出ればいろいろ審議できるのかなと。これはまたお願いですが、自助努力を前提として、助成金なども、策定の中で出てくればありがたいのかなと。また、一般市民でも、ごみ袋の単価が安くなる要素があったほうがいいかなとは思いました。その辺は策定の中で助成金ということが出てくるかわかりませんが、お願いをしたいと考えています。
- ・委 員 先ほどの最終処分場の話でも出ましたが、最終処分になる前に、プラスチックや古着は市でリサイクルする施設がないんですよ。だから、それを最終処分になる前に市で施設を検討していただきたいと思います。
- ・委 員 資料の中で、浦安市の家庭ごみの原単位が千葉県の平均に近づいてきたようですが、これは人口が多い千葉市、船橋市のラインに近づいただけというということですね。下を見れば、浦安市から見れば上なのかもしれませんが、600グラムとか達成しているところもたくさんあるので、目標は高くしたほうがいいかなと思います。それに関連して、平成14

年度の計画で、それぞれの計画目標の数値はどのように出されたものなののでしょうか。家庭系ごみの50グラム削減について、これは100グラムというのを目指していくとすれば、この5年間の計画目標達成できたねというのは、100グラム対100グラムというので、どうやって目標を設定するかによって、5年後の評価の際にまた新しい目標を作ることもあると思うので、この目標を数字にした根拠を知りたい。

・事務局 これは、目標値なんですけど、50グラム、5%、50%、35%と、非常にきりのいい数字になっています。この現基本計画の最後のほうは、数値がいろいろありますが、必ずしもそれは整合していない。これは、市民の皆さんに訴えるという部分があるので、ある程度アバウトな、市民の皆さんが取り組みやすいというような部分で当面の目標を設定しています。この数字は、厳密に50グラムがどうのという根拠はないんですが、この時点で50グラム内外の目標値というのは、ちょっと頑張ってもやらないと達成できない数字ということで設定しております。アバウトといっても、やはり1つの目標を次の計画をつくる時に非常に大事な部分になるので、これはやはり今回の家庭系ごみの減り方は、非常に頑張って達成しました。それは評価できますがあまり早く達成しても困るというのがありますし、その辺も踏まえて、今後検討していきたいと思います。

・委員 ごみを減らすに当たってはコストがかかりますよね。どのぐらいの人がごみ事業にかかわって、その上で100グラム減ったということがあると思うので「きりがいいから50」と言われても、ちょっと市民が聞いたらがっかりするかと思います。それなりのコストをかけて、今回はこれぐらいということできりのいい数字でもいいんですが、もう少し根拠的なものがあつたほうがいいと思います。

・事務局 言い訳になってしまうかもしれませんが、この当時の50グラムとは、結構頑張る必要のある数字でしたが、それ以上になると、また難しい面もあります。

・会長 ありがとうございます。では、ここで一般廃棄物処理基本計画の改定については終わりたいと思います。次に「イベントごみ減量ガイドラインの策定について」ご説明いただきます。

事務局からのイベントごみ減量ガイドラインの策定について説明後、各委員より質問及び意見を受け付けた。その際の内容については、次のとおり。

・委員 公共施設ごみの有料収集についてですが、幼稚園や保育園でも浦安の有料ごみ袋を使っています。今まで子供たちがナフキンなんかも捨てていましたが、これも現に資源に出るようになりました。この資源を私が扱っていますが、回収量はかなり増えてきました。したがって、燃やすごみがなくなってきたということになります。

事務局から環境基本計画年次報告書について説明をした後、会長より閉会の挨拶があった。  
最後に、事務局より会長・副会長・委員へ御礼及び挨拶後に閉会となった。